

思 春 期 保 健 に 関 す る 研 究

分担研究者 高石昌弘 (国立公衆衛生院・東京大学教育学部)
研究協力者 坂上正道 (北里大学医学部小児科)
宮原 忍 (東京大学医学部母子保健)
白井将文 (東邦大学医学部泌尿器科)
稲村 博 (筑波大学社会医学系)
江幡玲子 (思春期問題研究所・日本女子体育短期大学)
林 謙治 (国立公衆衛生院母性小児衛生学部)
柴若光昭 (東京大学教育学部健康教育)

I 研究目的

近年、思春期の中学生や高校生の生活指導に関する諸問題は、単に教育の分野だけではなく、社会全体の重要な課題として論じられている。これらの課題の背景には最近の複雑な社会情勢を含む環境条件の変化を始め、多くの要因がみられるが、それらの要因は健康・安全の視点から検討すべきものが多いと思われる。具体的に述べれば、急激な心身の成長・発達の過程における健康上の課題、とりわけ心の健康のゆがみや問題行動など、性意識の変化に伴う性行動上の諸問題、さらにオートバイによる事故や暴走の問題など、思春期にみられる健康・安全の諸問題は、きわめて多彩といわざるを得ない。

このような多くの諸問題の解決を図るためには思春期児童生徒の心身の健康状態を総合的に把握して、思春期の保健問題を地域保健および学校保健の接点としてとらえなおす必要があると思われる。そして、思春期保健の諸問題が母子保健システムのなかでどのように扱われるべきかを検討しなければならない。関係する諸分野の人びとの協力にもとづく総合的なアプローチが必要なのである。しかし、従来、思春期問題は教育面からとり扱われることが多く、保健システムのなかで扱われることは少なかったといつてよい。

そこで、本研究では、まず最初に、思春期における保健問題の実態把握を行い、ついで、これらの問題に対応するための思春期保健システムを検討し、その試験的適用についての評価を行ったうえで、母子保健システムの充実を目途とした望ましい思春期保健システムの確立に関する提言を作

成したいと考えている。

なお、以上の研究内容は一応3年間にわたる研究計画のうえに成り立ちうるものであり、初年度の研究目的は、思春期における保健問題の実態把握に集約させた。

II 研究方法

小児科、産婦人科、泌尿器科、精神科、社会福祉、母子保健、学校保健、健康教育など、思春期保健に関連する専門分野からの意見を総合し、広い視野で、この問題を検討することとした。

まず、初年度は研究協力者の既存の資料にもとづいて問題点を整理し、検討の視点を探った。ついで、全国の中学校(以下、中学と略称)および高等学校(以下、高校と略称)の校長宛にアンケートを送付し、養護教諭に回答を依頼した。アンケートの内容については、研究班会議において十分検討を加え、さらに一部の中学・高校の養護教諭を対象とした予備調査を行って改定を加えた。実施についての詳細や、調査の経緯などは次の調査報告に述べられているので参照されたい。

III 研究成果

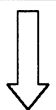
今年度は初年度なので、まず問題点の把握に力点をおいた。前述のアンケート調査の成績については次の調査報告を参照していただきたい。

なお、各研究協力者が独自に実施した研究成果は、それぞれの概要のみを本報告書の末尾にまとめてある。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

近年、思春期の中学生や高校生の生活指導に関する諸問題は、単に教育の分野だけではなく、社会全体の重要な課題として論じられている。これらの課題の背景には最近の複雑な社会情勢を含む環境条件の変化を始め、多くの要因がみられるが、それらの要因は健康・安全の視点から検討すべきものが多いと思われる。具体的に述べれば、急激な心身の成長・発達の過程における健康上の課題とりわけ心の健康のゆがみや問題行動など、性意識の変化に伴う性行動上の諸問題、さらにオートバイによる事故や暴走の問題など、思春期にみられる健康・安全の諸問題は、きわめて多彩といわざるを得ない。

このような多くの諸問題の解決を図るためには思春期児童生徒の心身の健康状態を総合的に把握して、思春期の保健問題を地域保健および学校保健の接点としてとらえなおす必要があると思われる。そして、思春期保健の諸問題が母子保健システムのなかでどのように扱われるべきかを検討しなければならない。関係する諸分野の互いの協力にもとづく総合的なアプローチが必要なのである。しかし、従来、思春期問題は教育面からとり扱われることが多く、保健システムのなかで扱われることは少なかったといつてよい。

そこで、本研究では、まず最初に、思春期における保健問題の実態把握を行い、ついで、これらの問題に対応するための思春期保健システムを検討し、その試験的適用についての評価を行ったうえで、母子保健システムの充実を目途とした望ましい思春期保健システムの確立に関する提言を作成したいと考えている。

なお、以上の研究内容は一応3年間にわたる研究計画のうえに成り立ちうるものであり、初年度の研究目的は、思春期における保健問題の実態把握に集約させた。